

現役時53.7%→1年後91.8%、驚異の38.1%UPを記録。

**東京学芸 早稲田 立教 明治 全勝**

**5教科7科目484点→827点にUP**

大木 智弘(川越高校卒)



3年生の3月、大木の受験は終わった。結果は全滅。高校3年間、野球や学校行事に時間を取られ、勉強に一生懸命打ち込むことができなかった。大木の志望校は東京学芸。夢は数学を面白く教える先生になること。これを達成するにはまず5教科7科目で200点上げなければならない。偏差値でいうと20のひらきだ。

一般的に浪人生が1年間で上がる点数は50点といわれ、200点upは不可能に近い。しかし東進であれば高速学習ができるため1年間の授業を1カ月で終えることもできる。つまり成績が劇的に上がる学習の仕方が完璧にそろっているのだ。しかも他の予備校は5月から本格的に授業が始まるが、東進なら入塾してからすぐ勉強を始めることができる。大木は3月中旬、東進で浪人生活をスタートした。大木は英語が苦手な単語をほとんど覚えていなかった。担任は「英語はまず単語を頭に入れる。1000より2000、2000より3000。数が多ければ多いほど力はつく。それも短期間に一気に!」

東進ではどんなに暗記が苦手な生徒でも3日~1週間で2000コ詰め込む高速マスター講座がある。大木は入塾してすぐに取り組んだ。センター1800は2日、熟語750は3日。驚異的なスピードでこなす。担任の英単語テストも3月中に50点中の46点を記録。大木は3月中にセンターレベルの英単語、熟語を一気に覚えてしまった。英文法の授業、構文の授業も4月のセンター模試までに終えた。現役時のセンターは83点であったが、4月の模試で132点。スタートの1ヶ月で50点近く上げた。担任と大木で立てた計画通りの学習量と成績up。面談時に少しだけニコリしたが、「5月はどのように5教科7科目やっていけばいいですか?」「二次試験で使う数ⅢCをどういうスケジュールでやればいいですか?」とすぐ切り替えた。大木はきわめてストイックだ。油断という言葉が彼にはまったくない。5月のGWから毎週水曜日は、センター過去問演習講座で英語と数学、国語の3教科に取り組む。英語は回を重ねるごとに140、160、170点を記録、数ⅠAも80点を突破。しかしⅡBと現代文が不安定。ある日の面談で「数ⅡBは計算量が多すぎることに、特に空間ベクトルは計算も厳しいけど図形の作図がめちゃくちゃになって・・・」と大木。今までにない深刻な表情だった。その日の面談は長時間続いた。担任と大木で考えた勉強法は数学ⅡBは毎日解く、特にベクトルはそれとは別に朝と夜に大問別で解く。現代文は読み方、解き方がバラバラになっていたのもセンター現代文を受講、その後に過去問を解くという学習に変更した。効果はなかなか出なかったが、実のところ、大木も担任も確実に手ごたえを感じていた。そして、9月の終わりには、過去問で数学ⅡB、現代文が8割を安定してとれるようになっていた。

10月、いよいよ過去問演習にはいる。日曜に国立二次の記述型答案練習講座、木曜に早稲田の過去問演習講座を解く。早稲田の数学は大木にとって相性がよくない問題が出題され合格点に届かないこともあった。そんなときこそ、解説授業をしっかり受けて、過去問の解き直しを徹底的にやった。

大木は1年の全てを勉強に費やした。毎日、朝から夜まで。正月も校舎で勉強。リズムを崩すことはなかった。結果、東京学芸、早稲田、立教、明治合格。それは、担任と二人三脚でつかんだ人生の勲章ともいえる。大木は今、志望大学に合格するという中間目標を達成した。これから数学の先生になるために、数学の楽しさを追究するために、大学でもストイックに勉強に打ち込むだろう。